

《ご挨拶にかえて》

「速記・記録」の“人間わざ”で、 AIと勝負できれば」

理事長 中根 康雄

* “神わざ”から“人間わざ”の持ち主に

速記界は、録音機がなかった時代には“神わざの持ち主”ということで、速記者が非常に高い評価を受け、録音機の性能が上がり、ワープロができ、音声認識装置が開発されてきたという流れの中でも、“人間わざの持ち主”として、高い評価を維持してきました。

ただ、残念ながら、「録音機があれば」「ワープロがあれば」「音声認識装置があれば」というマスコミの報道などの力に押されてしまい、速記の必要性が軽んじられてきたことは事実です。

そのため、速記士を目指す方が非常に少なくなってしまい、後継者不足も目立っておりますが、そうだからといって、速記士という職業がそう簡単に消えてなくなるものでは決してありません。

* 「速記者」は発言記録の総合的な編集者

速記の仕事というのは、①発言された言葉を記録すること、②必要に応じて整文すること、③正確な文字に直すこと、④校閲することという、4つの仕事をしているため、速記士というのは、発言の記録者であり、編集者であり、タイピストであり、校閲者でもあるわけです。

ですから、いわゆる本格的な速記文字が書けるかどうかは、余り大きな問題ではなく、速記者、速記士、速記・記録者というのは、“発言記録の総合的な編集者”と言えると思っています。

* 「速記」とは、ただ単に「速く書くこと」

ところで、「速記」という言葉の意味は、日本で最も有名な国語辞典には、ま

ず、「文字を速く書くこと」となっています。つまり、本格的な速記文字を書くことではなく、ただ単に文字を速く書くことが速記ということになっています。

そして、2番目として、「特に、速く書ける特殊な文字を使って発言を書き取ること」というような意味が書かれていて、小さな国語辞典には、2番目の意味しか載っていない場合がほとんどだと思われま

す。そういう意味において、私は、「メモをすることが速記であって、かな文字を速く書いたり、英語の頭文字を書いたりして、文字を速く書くことが速記ですから、いわゆる本格的な速記文字が書けるかどうかは関係ありません」と、いつも申しております。

***録音機も反訳機もどンドン取り入れて**

そういうことは今でも同じで、速記という業務の中では、性能のいい録音機を率先して使ってきましたし、ワープロも真っ先に導入しましたし、音声認識措置の能力が向上してパソコンをできるだけ打たなくて済むようになれば、もっとありがたいわけです。

そして、パワーポイントの画面の文字の書き写しや、録音機に入らないような不規則発言などをメモしたりするためには、本格的な速記文字を知っていれば、なおありがたいということになると思っています。

ですから、いわゆる本格的な速記文字が書けるかどうかで、速記ができるかできないかということにはならないわけですが、一般的な世間の認識はそうではなく、「速記＝速記文字」ということで、速記に対する評価が下がってしまったといえると思います。

***AIの能力と競争できれば**

速記界は、業界としての力がありませんでしたので、マスコミ等の論調に負けてしまいましたが、「AIの能力が向上すれば、消えることが予想される職業」に「速記業」が入っていたような論調に対しては、しっかり反論していかなければならないと思っています。

つまり、速記業務というのは、「ただ単に録音機のかわり」ではないわけですから、音声認識装置の性能が今後とも向上していても、“人間わざ”を磨いて

いければ、十分対抗していけるはずだと確信しております。

*** “誤キャブラリー” の例のご提供のお願い**

なお、そういう意味において、私は、現在、“誤キャブラリー”に関する本を書いておまして、“人間わざ”の部分を強調したりしてみたいと思っております。

本のタイトルは、「“誤キャブラリー”と“シャレルギー”のおすすめ」です。

速記業務の中でしばしば出てくる聞き間違いの例を、“誤キャブラリー”と表現しました。つまり、無意識のうちに間違ってしまった言葉です。

一方、シャレというのは、同音異義語や類音語を駆使して、意識的に言葉遊びをするもので、「シャレ」の力が言葉のエネルギーを増すということで、“シャレルギー”という表現にしました。

こういう無意識の間違いと意識的な間違いの両方を扱った本は、今までほとんどないのではないかと思いますので、ぜひ世の中に出せればと思っております。

ただ、専門的、学術的な言葉による“誤キャブラリー”はたくさんありますが、一般的な言葉による“誤キャブラリー”によって、思わず笑ってしまうような言葉を集めたいと思っております。

聞いてびっくりしたというような“誤キャブラリー”をお持ちでしたら、ぜひご連絡いただければ、掲載させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

*** “誤キャブラリー” の例 ***

最後に、毎年開催の10月の速記競技会において、皆さまに楽しんでいただいた「誤訳・誤字探し」でご紹介したネタなどの例を、少し挙げてみましたので、「そんな間違いをする人がいるのか」「え？どこが間違いなの」とか、頭を少し使っていただければありがたいです。

【その1：類音語の例】

うそかほんとかは定かではありませんが、スマホに向かって、「新宿から府中までの料金」と聞いたところ、「新宿から宇宙までですか」という質問が返ってきたというような例です。

1. 懇親会で、飲み物とか着物を用意した。
2. そんなことはばかにならんという通達が出た。
3. 人間万事、最後が馬。
4. この方は、嫁行くばかもない。
5. 原発で、水槽爆発が起こった。
6. 爆発の兆候で、まだまだ溜まってきた。
7. 銭湯が減って、数%になった。
8. 時代劇で、「都の連中でござる」と。
9. 景気は、急激に、無事回復した。
10. 放棄された公民館を民宿に改装した。
11. 将来は、苦労人間が誕生するかも。
12. 直径が7メートル単位の繊維を開発。
13. 私は現在、財務部の水道課に勤務。
14. シニア労働は大変だが、夜勤手当がつく。
15. 弁護士を目指し、ほかの大学院で勉強。
16. ハンカチで口笛を吹いてと言われた。
17. 喫茶店で紅茶と消毒液セットを注文した。
18. 社長には、社員を壊していく責任がある。
19. そんなことは社会に説法ですが、
20. 遠慮なく、汚いご意見をぜひどうぞ。

【その2：同音異義語の例】

1. アンケートに誤回答を依頼した。
2. 血圧上昇を防ぐため、高圧剤を飲んだ。
3. 治療用に男性ストッキングを推奨。
4. 重症患者は心配停止になる可能性がある。
5. 交通事故の補償で、医者料を請求した。

6. 食料難で、増水を食べた過去の思い出。
7. 「がん科に入院」という連絡でびっくり
8. 今回の人事異動で酒税局長に栄転。
9. 抜歯してから5日後に抜歯した。
10. 細食主義に徹して、健康管理。
11. 転居後は、食住接近で、通勤が便利に。
12. 日本は、放置国家として成熟しているか。
13. 研究の青果物を発表し、評価された。
14. 人事降下規程の見直しを検討した。
15. 支部の報告が福祉部長からあった。

(念のため、解答は、文末に記載させていただきます。)

ただ、こういった例をただ単に並べただけでは、読み続けてもらえないと思いますので、

- ・ 歌詞の間違いの例。(「ウサギおいしい、蚊の山」など)
- ・ 街なかで見つけたシャレの効いた看板や広告の例
- ・ 小さい子供さんの間違い例
- ・ 高齢者の方の間違い例
- ・ 言葉遊び(「ダジャレ」⇒「シャレ」⇒「おシャレ」のすすめ)
- ・ 文字クイズ

などを、少しずつ交えながら、できるだけ飽きられないような構成にできればと考えております。

なお、歌詞の間違いの例としては、

「巨人の星」という連載漫画がテレビ化されて、その主題歌を聞いた人が、「思い込んだら」という歌詞が流れているシーンが、ちょうど、主人公がグラウンドの土をならすローラーを一生懸命引っ張るシーンだったので、

「あのローラーはコンダラーという名前で、非常に重い」と思ってしまい、

「思い込んだら」 ⇒ 「重いコンダラー」

と、それこそ、思い込んでいたということです。

この話を聞いていましたが、「実は、私も」という方は意外に多くありました。

また、速記界の歴史に残る聞き間違いの例をご紹介します。

何度も確認したのに、最初に“思い込んだらー”の結果、新聞記事として出てしまって、大問題になったという、これまた古ーいお話です。

メールもないFAXもない時代、新聞社には、全国の各支局からのニュースを、電話で書き取るという専門職（速記者）がおられました。

「ある皇族が、奈良の二月堂で大きな亀をご覧になった」という連絡を受けたときのお話です。皇族に関するものは重要記事なので、なぜ亀なのかを、何度も確認されたそうです。ところが、

本社の速記者：「大カメ？ それは、大きな亀ですね。」

支局員：「そうだ。大きな鐘だ。」

速記者：「ツル、カメの亀だね？」

支局員「うん、つり鐘の鐘だよ。」

速記者：「もう一度念を押すがね、動物の亀だよね？」

支局員：「そうだよ。大仏の鐘だよ。」

ということで、最後まですれ違ってしまって、結局、「亀をご覧になった」という記事になってしまったということでした。

それから、有名な政治家の方の発言で、国会の速記者が困ったという話を聞いたことがありますので、これもご紹介させていただきます。

「慇懃無礼 (インギンレイ)」という言葉だけでは、まだ足りないということで、

「インテイズブな表現をするな」

と言われた方があって、意味不明で困ったというお話です。正解は、

「慇懃 (インギン)」 「丁寧 (テイネイ)」 「ずぶとい」

という3つの言葉を併せて、「慇懃無礼」な表現を何倍も拡大したというわけですが、こういう造語が出てくると、AIも真っ青というところかと思います。

さらに、外国語の聞き間違いというか、つくり話のようですが、1つだけご紹介させていただきます。

これまた古い話で、「知る人ぞ知る」話で、「知らない人は誰も知らない」という話です。

有名な映画俳優のアラン・ドロンの人をCMに起用して、服飾メーカーのレナウンが、「ダーバン」というブランドのコマーシャルをしていたことがあります。

そのアラン・ドロンのせりふの「ダーバン、セ何とか、何とか」というフランス語が、

「ダーバン、背広は欲しいが、金がない」

としか聞こえなかったという話を、誰かから教えてもらったことがありました。

耳慣れないフランス語と高級ブランドのイメージが重なって、“誤キャブラリー”が生じたようですが、本当のところは、

D'urban, c'est l'élégance de l'homme moderne.

というフランス語で、「ダーバン、それは現代の男のエレガンスだ」という意味だったそうです。

もし興味をお持ちになったり、また、このテレビCMを懐かしく思い出されたら、「アラン・ドロン」と「ダーバン」でネット検索すると、何と50年ほど前の映像を見ることができますよ。

以上のような例をいろいろ挙げながら、最後は、「なるべく書かないメモ術」の話や、「聞き書きのすすめ」から、「速記のすすめ」まで話を進め、「速記の重要性の再認識」をしていただけるようにできればと考えておりますので、よろしく願いいたします。

【解答】

- 【類音語】 1. 乾き物 2. まかりならん 3. 塞翁が 4. 余命いくばくもない 5. 水素
6. マグマが 7. スーパー銭湯 8. 殿、殿中 9. V字 10. 古民家 11. クローン
12. ナノメートル 13. 出納課 14. 深夜 15. 法科の 16. 唇を拭いて

17. ショートケーキ 18. 食わして 19. 釈迦 20. 忌憚のない

[同音異義語] 1. ご 2. 降圧 3. 弾性 4. 心肺 5. 慰謝 6. 雑炊 7. 眼科 8. 主税

9. 抜糸 10. 菜食 11. 職住 12. 法治 13. 成果 14. 考課 15. 副支部